

令和元年度 大阪府立羽曳野支援学校 第3回 学校運営協議会 概要

日 時 令和2年2月21日(金) 15:00~16:30

場 所 大阪府立羽曳野支援学校 校長室

参加者 亀田委員 平井委員 平賀委員 中條委員

木村校長 中川事務長 福積教頭 名手教頭 上間首席 多田首席 松浦教諭

畦地教諭

1 校長挨拶

・本日は、学校教育自己診断結果・次年度の学校経営計画をおしめしして、お気づきの点やご意見をいただきたい。

( ●は協議会委員 ○は事務局員 )

2 令和元年度 学校教育自己診断アンケート結果について 6月~11月

(○) 総評および説明

- ・全体的には肯定的な多かったが、児生8の「地震や災害の評価」が低かった。
- ・保護者については14項目において回答率が2年連続で98%を超えた。
- ・医7の「病気の子どもに学校教育は必要と思う」が77%と高い結果となった。

(●)

- ・児生9の「先生はあなたの前の学校の先生と連絡を取り合っている」については、児童生徒本人にはわからないと思うのだが、数値が高いのはコツがあるのか?
- ・医7の「病気の子どもに学校教育は必要と思う」子どもたちにはまもらなければならない最低限のルールがあつて、ややネガティブな意見があつても、回収率は?。

(●)

- ・保護者と児童生徒との意見がかなりちがう。
- ・広報的な手法があればおしえてほしい。

(●)

- ・保9の「学区は地域校と連絡や転校時の引継ぎを行っている」保11「教員は個別の教育支援計画を本人・保護者のニーズを踏まえて作成している」保13「学校は病弱の支援学校としての専門性がある」については、丁寧にさせていただき利用率があがることは大切なことだと思う。

Q・なぜ調査に6ヶ月も必要なのか?

A 時間をかけて丁寧に説明し実施しているからです。

(●)

三名の委員の方が適切な質問をしていたので、私は医療の立場でお聞きします。

- ・児生4の「これからの夢や職業・進路について先生と話し合ったことがある」については、数値が低いが、医療関係者と連絡を密にして、こういう（入院している）子に社会との接点を見つけていってほしい。

### 3 平成31年度学校評価について

(校長)

- ・本校の取組内容と自己評価について
- ・自己評価△についての説明
  - (1) 図書ネットシステムについて → 本校は終わったが分教室が不十分
  - (2) 地域との退院後アンケートについて → 回収率35% (次年度に改善したい)

### 4 魔法のプロジェクトについて 報告

(○)

- ・ネットで相手と話をしたり、本校・分教室等で合同教科学習をおこなった。

(●)

- ・在籍期間が短いので帰属意識が薄くなるので、他の病院にもつながり生徒教育が一番良かったと思うことはありますか？

A 訪問生徒の孤立感が薄くなったと思われます。

(●)

- ・一人二人の人間が学習するのは難しいのでICTでのつながりができたのではまた、地域校・他の入院している児童生徒がつながるので意識が上がるのでは。

(●)

- ・ICTを取り入れて何年目ですか？

A 2年目です。(回線の細さがあるので)とっていただければ。これからは充実させて羽曳野支援全体で学んでいけるという気持ちを感じさせていきたい。

(●)

- ・どんな学校に勤めても役に立つシステムではないですか。

実施して良かったと思うことはありますか？

(●)

- ・子どもたちの意欲の向上が見えて良かった。自分は一人ではなく、みんなと生きているという意識が大切

(課題) 地域校と共通の理念で動いているのか？ やりがいのあるプロジェクトではある。

### 5 令和2年度 学校経営計画(案)について

(校長) 説明

